環境アセスメント学会　論文執筆要綱

The Guideline for Writing the Paper for the Journal of Japan Society for Impact Assessment

環境　花子\*　，　アセス　太郎\*\*

Hanako KANKYO , Taro ASESU

**Abstract**

This Guideline is important when you write the paper for the Journal of Japan Society for Impact Assessment. So, you must check this Guideline carefully.

キーワード：○○○○○○，○○○○○○，○○○○○○，○○○○○○（３～５語）

Keywords : Assesment, Environment, Society (3-5 words)

# 1.体裁

## 1.1.用紙と分量

A4版上下余白を各25mm，左右余白を各25mmとして印字する．1頁当たり22字×45行×2段＝1980字とし，図・表等も含めて12枚までを厳守する．

## 1.2.言語

原稿は，和文または英文で作成すること．英文原稿については英文タイトルが上になる．

## 1.3.印刷

原稿はオフセット印刷でA4版がそのままの大きさで印刷される．なお，行番号と現在のページ番号は査読用である．学会誌掲載時に執筆者が行番号を削除し，本論文執筆要綱に合致した原稿を提出する．ページ番号は改めて振り直される．

## 1.4.タイトル，氏名，所属名

1頁目の上部5行程度に和文タイトル，英文タイトル，和文投稿者氏名（和文所属名），英文投稿者氏名（英文所属名）を記載する．

## 1.5.英文概要（Abstract）

刷り上げ8行（100～120words）の分量で論文概要を英語で記載する．

## 1.6.キーワード

英文概要の後に1行空けて論文内容を的確に表現するキーワードを3～5つ程度英語で記載する．

## 1.7.見出し

章，節，項の見出しの数字は，次のように統一する．これ以外の小項目はなるべく避ける．また，各章の前後1行と各節の直前1行はあける．

1，2，3 ････章

1.1，1.2，1.3 ････節

a)，b)，c) ････項

## 1.8.図表

図表は，前後の文章や図表との間に1行あける．表のキャプションは表の上に記載し，図のキャプションは図の下に記載する．2行になる場合は，インデントして折り返す．

# 2.活字

## 2.1.手書き不可

Wordファイルなどの文書作成ファイルとして提出する．数式，図表中の文字等の手書きも原則として認めない．

## 2.2.フォント

タイトル，氏名（所属），英文概要，キーワード，本文，見出し，図表のキャプションについて，使用するフォントは表1を基本とする．

# 3.補注・文献

## 3.1.補注

補注を必要とする場合は，以下に従い記載する．

【本文中】

補注を必要とする個所に(1)，(2)，･･･(n)の記号を示す．また，インタビュー調査などから得られた内容は本文中に「E.Lopez （私信）(1)によると・・・・」のように示す．

（記載例）

　　「…の効果(2)が認められている．」

　　「環境ら（2010）(3)によると…」

【補注】

本文の後（参考・引用文献の前）にインデントして一括掲載する．

表1　タイトル等で使用するフォント

（記載例）

(2) 影響次郎（2010）「影響評価」（p100、アセス書店）において『環境アセスメントを行うことで…の効果がある』と記されている．

(3) 環境らは，〇〇事業の環境アセスメントXX事例を分析し，…と指摘している．

## 3.2.参考・引用文献

参考・引用文献は本文に関わりあるものにとどめ，以下に従い記載する．

【本文中】

引用箇所に（著者，年号）の順に記載する．著者が複数の場合は，2名までは（著者1と著者2，年号）と記載し，3名以上の場合は（著者ら，年号）と記載する．

（記載例）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 和文 | 英文 |
| タイトル | 等幅のゴシック体（例：MS明朝），12pt | 等幅のTimes New Roman，12pt |
| 投稿者氏名，所属名 | 等幅の明朝体（例：MS明朝），10pt | 等幅のTimes New Roman，10pt |
| 英文概要 |  | 等幅のTimes New Roman，10pt |
| キーワード |  | 等幅のTimes New Roman，イタリック体，10pt |
| 見出し，図表のキャプション | 等幅のゴシック体（例：MS明朝），10pt | 等幅のTimes New Roman，10pt |
| 本文，補注，参考・引用文献 | 等幅の明朝体（例：MS明朝），10pt | 等幅のTimes New Roman，10pt |

　　「…の減少が指摘されている（環境，2009）．」

　　「環境ら（2010）によると…」

【参考・引用文献リスト】

本文，補注の後に一括掲載する．和文文献をアイウエオ順で記載したのち，英文文献をアルファベット順で記載する．各文献の情報は下記の通りとする（英文文献もこれに準ずる）．

単行本：著者名 (公刊西暦年号) 書名，参考・引用頁，発行所名.

論　　文：著者名 (公刊西暦年号) 表題，掲載誌名，巻(号)，参考・引用頁.

ホームページ：引用先名，ホームページアドレス，最終アクセス日（表記例：2010.1.15）.

（記載例）

影響花子(2010)環境アセスメント手続きにおける代替案の評価方法に関する研究，環境アセスメント学会誌, vol.10(2)，30-36.

環境アセスメント学会ホームページ, http://www.jsia.net/ (最終アクセス日: 2012.12.25)

評価太郎 (2012) 環境アセスメント学会誌の投稿論文の執筆方法, 1-2, 環境アセスメント書房.

Athanasios Ragkos, Asimakis Psychoudakis, Argiro Christofi, Alexandros Theodoridis (2006) Using a functional approach to wetland valuation: the case of Zazari–Cheimaditida, Regional Environmental Change, 6, 193-200.

# 4.本フォーマットの利用

## 4.1.本フォーマットの位置付け

審査用原稿を作成するための参考として作成した．本論文執筆要綱で指定する体裁とは異なっている．執筆者が本フォーマットを活用して，学会誌掲載用原稿とする場合，4.3.に示す事項に留意する．

## 4.2.本フォーマットの利用方法

本フォーマットは参考であり，論文審査の前には執筆者において，本論文執筆要綱に合致していることを確認する．

なお，本フォーマットでは，本フォーマットと同様のスタイルの文書が作成できるよう，Microsoft WORDのスタイルの機能で体裁等を設定してある．

## 4.3.掲載用原稿とする場合の留意事項

本フォーマットでは，査読用の行番号を表示するため，論文本文部分のセクションにおいて，ページ設定－余白で左右の余白を22mmに，ページ設定－その他で行番号を追加している．投稿論文が受理された際には、余白と行番号の設定を本論文執筆要綱に合致するように修正したうえで、原稿データを提出する．